

the Opening Address

Ophthalmic Surgery Film Awardも今回で第4回を迎えます。この賞は、眼科手術の映像を、公平且つ科学的な観点から評価しようという、我が国にはそれまでになかったコンセプトの企画として2006年に始まりました。この趣旨に全面的に賛同していただきましたファイザー株式会社のご支援により毎年開かれております。

今回も、都内に集合して、一日缶詰めとなり選考会を開催いたしました。私たち審査員が一生懸命審査しまして選びました7つの映像をご紹介します。

賞には3つカテゴリーがあります。

- 教育的なことを評価する「エデュケーショナル部門」
- ジャンルを問わずいろいろな新しいアイデア、コンセプトを評価する「ニューコンセプト部門」
- 手術のいろいろな技術や、合併症マネジメントを評価する「テクニク・コンプリケーションマネジメント部門」

それぞれの部門にはGold AwardとSilver Awardがあります。全体を通して最も優れている作品がGrand Prixとなります。

全体の作品応募数は毎年それ程変わりませんが、今年はニューコンセプト部門への応募が多く例年以上に激戦でした。もう少し他の部門にもご応募いただけたら良かったと思いました。

審査員側で「この作品はこちらの部門が適当だ」と判断した場合は、エントリー部門を移っていただきました。

応募作品は早送りすることなく全部見て点数をつけ、公正に審査を行いました。皆さんに時々「予算をかけて立派につくったほうが有利ですか?」と聞かれます。しかしその様なことは全くなく、内容重視で評価することを心がけて審査しました。

色々な賞の選考にかかわらせていただけていますが、中でもOphthalmic Surgery Film Awardが一番おもしろく、審査員全員が審査をしながら、「こんなアイデアがあるのか?」という発見もあり非常に勉強になります。過去3年間で、受賞した作品のアイデアの幾つかが実際に商品として売られていたり実用されたりしていますので、今年の作品のいくつかも商品や術式となって広まっていくと思います。そういった意味も含めてまた来年が楽しみです。だと思っております。

Ophthalmic Surgery Film Award
選考委員代表
大虎 哲郎





New Concept部門

Gold

浦野 哲 先生

久留米大学医学部眼科学講座 助教

山川 良治 先生

久留米大学医学部眼科学講座 教授

玉井 亨彦 氏

株式会社 八光

中村 庄一郎 氏

株式会社 八光

受賞作品

ドレープ付き開瞼器

こういう賞をいただきまして、誠にありがとうございます。この器具を開発するにあたり、ご支援いただきました皆様方、特に手術などのご指導をいただいた山川先生に厚く御礼申し上げます。今回のビデオは本当に手作りで仕上げました。今後、水がたまりやすい部分の改良や大きさの検討、さらにはいろいろな手術への応用等、頑張って開発していきたいと思います。

Presenter



杏林大学医学部眼科学教室 教授

永本 敏之 先生

Comment:

おめでとうございます。開瞼器とドレープを一緒にしてしまうというのは思いつきそうでなかなか思いつかないことだと思います。見事にその思いつきを形にし、さらに利点をもたらしただけという事は素晴らしいと思います。まだ水がたまりやすいとか、少し改良の余地もあるかもしれませんが、ぜひこれを発展させてどんどん臨床応用できる形にしていだけたらと思います。どうぞこれからも頑張って実用化に向けて開発を進めてください。